

283) 北国の恋

悲しいときにゃ悲しみを ^{いろり} 囲炉裏の中で燃やしゃいい
苦しいときにゃ苦しみを 大地の土に埋めりゃいい
どんなに寒い冬だって 必ず春はめぐるから
北の国では喜びも 雪に埋めて春を待つ

悲しかったら泣けばいい 苦しかったら死ねばいい
実らなかった思い出を ひとりで抱いているよりは
炎にくべて赤々と ^{たきぎ} 薪とともに燃やしゃいい
北の国では生命さえ ^{いのち} 寒さの中で枯れてゆく

薄化粧してひとり寝の 寒さがつらいこともある
雪に埋もれて春を待つ 心しびれることもある
春になったら芽を吹いて 夏になったら燃え上がる
北の国では東の間の 春と夏とが過ぎてゆく

破れた恋の悲しみは 冬の寒さにさらしゃいい
寒さの中で悲しみも ^い 凍てつくように忘れてく
昨日の恋が癒えたなら 明日には次の恋が来る
北の国では半年で 一年分の恋をする